土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　福山沼隈線道路改良工事に伴う業務委託（8工区）

事業名 または 工事名

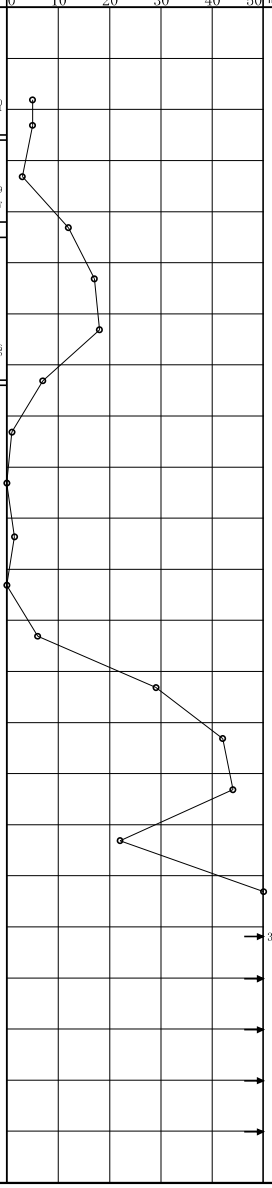
調査目的及び調査対象　道路 橋梁・高架

ボーリング名	B-1-17	**調査位置**	広島県福山市草戸町半坂地内			**北緯**	34° 28′ 17.6728″
発注機関	広島県東部建設事務所 福山幹線道路建設事業課			**調査期間**	2019年 10月 9日 ～ 2019年 10月 17日	**東経**	133° 21′ 16.3899″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 5.15m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 0°
総削孔長	22.00m					**使用機種**	**試錐機** 東邦D1-B
							エンジン ヤンマーNFD13 **ポンプ** 東邦BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
1	3.15	2.00		礫混じり砂		褐	rd2		新生代第四紀	(盛土) φ5～30mmの亜角礫を10～30%混入する。基質は，未固結な極粗砂～粗砂主体で，含水は小である。	
2	2.40	2.75		砂		褐	rd2			φ10mm未満の亜角～亜円礫が点在する未固結な極粗砂～粗砂を主体とする。含水は小である。	10/10 午前
3	1.20	3.95		シルト混じり砂		褐	rd1			φ5mm程度の亜角～亜円礫が点在する未固結なシルト混り中砂～細砂を主体とする。含水は中位である。GL-3.45～3.70m間は，細～中砂の薄層を挟む。	10/09 午前
4	0.55	4.60		砂		褐	rd3			φ5～10mmの亜角礫が点在する未固結な粗砂～中砂を主体とする。含水は小。	
5	0.15	5.00		シルト質砂		褐～暗灰	rd3			φ5mm程度の亜角礫が点在する未固結なシルト質中砂～極細砂を主体とする。含水は中位である。	
6	-1.75	6.90		砂		褐	rd3			φ5～10mmの亜角礫が点在する未固結な極粗砂～粗砂を主体とする。含水は中位である。	
7	-2.55	7.70		シルト混じり砂		灰	rd2			φ5mm程度の亜角礫を10%未満混入する未固結なシルト混り極粗砂～中砂を主体とする。含水は中位である。	10/16 午前
8	-4.85	10.00		シルト		暗灰		rc1		不均質に極細砂を混入する未固結なシルトを主体とする。GL-8.45～8.60mにφ5～10mmの礫を混入する。粘性中位で，含水は中位～大である。	
10	-5.55	10.70		砂混じりシルト		暗灰		rc1		不均質に粗砂～極粗砂を混入する未固結なシルト主体。粘性中位で，含水は中位。	
11	-6.30	11.45		シルト		暗灰		rc1		未固結なシルト主体。貝片を少量混入。粘性中位で，含水は中位～大。	
	-6.65	11.80		砂質シルト		暗灰		rc1		粗砂～極粗砂を混入する未固結なシルト主体。粘性中位で，含水は中位。	
12	-7.75	12.90		シルト混じり砂		暗灰	rd2			φ5～20mmの亜角～亜円礫を10～20%混入する未固結なシルト混り粗砂～細砂主体。下部ほど礫多い。含水は中位。	
13	-8.85	14.00		礫混じり砂		暗灰～褐灰	rd3			φ5～30mmの亜角～円礫を20～50%混入する未固結な極粗砂～粗砂主体。含水は中位。深度13.7m以深は礫分少ない。	
14	-9.65	14.80		砂礫		褐灰	rd4			φ5～50mmの亜角～円礫を30～50%混入。基質は未固結な極粗砂～細礫主体。含水は中位。	
15	-10.30	15.45		礫混じり砂		褐灰	rd4			φ5～20mmの亜円～円礫を10～20%混入する未固結なシルト混り粗砂～中砂主体。含水は小～中位。	
	-10.85	16.00		砂礫		褐灰	rd4			φ5～40mmの亜円～円礫を20～50%混入。基質は未固結な極粗砂～細礫主体。含水は小。	
16	-11.55	16.70		礫混じり砂		褐灰	rd3			φ10～20mmの亜円～円礫を10%程度混入する未固結な極粗砂～粗砂主体。含水は中位。	
17	-13.25	18.40		砂礫		褐灰	rd5			φ5～40mmの亜角～亜円礫を10～40%混入。基質は未固結な極粗砂～中砂主体。含水は中位。	
	-13.35	18.50		強風化花崗岩		褐			中生代白亜紀	岩石組織明瞭で指で崩せる。DL級。	
19	-15.05	20.20		風化花崗岩		褐				概ねハンマー軽打で濁音し，容易に割れる。一部，指で崩せる。岩石組織明瞭だが，岩芯まで風化により褐色化する。固結真砂状・片状・短柱状コアよりなる。DH級岩盤。	
21	-16.85	22.00		風化花崗岩		褐～灰				ハンマー軽打で鈍い金属音する。岩石組織明瞭だがコア肌はやや粗い。岩芯まで風化を受けるが，一部で褐色化が弱い。短～長柱状コアよりなる。CL級岩盤。	

標準貫入試験

深度－N値図



N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
5	1.65	3	1	1	5/300		
5	2.95	2	2	1	5/300		
	2.45						
3	3.15	1	1	1	3/300		
	3.45						
12	4.15	2	5	5	12/300		
	4.45						
17	5.15	3	6	8	17/300		
	5.45						
18	6.15	5	6	7	18/300		
	6.45						
7	7.15	2	2	3	7/300		
	7.45						
1	8.15	1/300			1/300		
	8.45						
0	9.15	自沈			0/300		300
	9.45						
2	10.15	1/200	1/200		2/400		
	10.55						
0	11.15	自沈			0/300		300
	11.45						
6	12.15	2	2	2	6/300		
	12.45						
29	13.15	10	9	10	29/300		
	13.45						
42	14.15	12	16	14	42/300		
	14.45						
44	15.15	14	14	16	44/300		
	15.45						
22	16.15	7	7	8	22/300		
	16.45						
50	17.15	17	16	17	50/300	300	
	17.45	50			50/50		
300	18.15	50				50	
	18.20						
	19.00	貫入不能			50/0		
	19.00						
	20.00	貫入不能			50/0		
	20.00						
	21.00	貫入不能			50/0		
	21.00						
	22.00	貫入不能			50/0		
	22.00						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					10/9
					10/10
					10/11
					10/15
					10/16
					10/17